

1 学習に取り組んでいる主な分野

<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 海洋	<input type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> その他（ 食育 ）	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、「よく聴いて、考える力の育成」を重点目標に掲げ、将来にわたって持続可能な社会を構築するため、「自分自身と、地域の人や自然、歴史、伝統文化と深いつながりがあることを知り、それらを大切にして自分にできることに取り組む子供を育てる」という目標を設定した。

地域にある自然や地域の方とも積極的に関わしながら、校区の特色を生かし、「ひと、こと、ものとのかかわり」を大切にして豊かな心を育むとともに、体験を通して自ら考えを深め、心身ともに健康な子供の育成に努めている。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ 4年生 鳴川・諏訪川探検隊「くらしの中の環境保護を考えよう」(地域の川から海へ)

玉川小のそばにある『鳴川』は、地域を巡ったのち、『諏訪川』に流れこんでいる。この鳴川について調べてみると、透明度が高いことや、きれいな川にしか棲まない生物が見られることが分かった。このことをもとに「『鳴川』がきれいな理由は何か」「『有明海』に注ぎ込むまでに、水の透明度はどのように変わるのか」と学習計画を立てた。

そして、これらの学習計画に基づき、調査をすすめた。調査には、COD検査などの科学的な数値や、生息している生き物の種類などを指標にし、客観的なデータを基に進められるようにした。



また、地域の方や市役所の職員の方をG Tに招いて、環境について話をしていただいた。

これらの活動を通して、『鳴川』の自然を守ってくれている地域の方がいらっしゃることや、自分たちはその恩恵にあずかって生活していることを学ぶことができた。そして、この学習を通して、自分たちにできることは何か考え、玉川の環境を多くの方に知ってもらおうと、校内外への発信に取り組んだ。

○ 5年生 米づくりに挑戦しよう

玉川地区は昔から米作りが盛んにおこなわれてきた。その一方で、年貢米を納めるために大変な苦勞をしてきたという歴史もある。それが『米はかり踊り』として、今に受け継がれている。

そこで、昔ながらの農法で、米の収穫まで体験することをとおして、玉川の伝統について考える活動に取り組んだ。

米作りには、地域の方の田んぼを使わせていただき、それぞれの作業についても「田んぼの



会」の方々に協力していただいた。全てを手作業で行う昔ながらの米作りは、手間と労力がかかり、子供にとって想像以上の苦勞があった。この経験をとおして、実った米を大切に扱う姿も見られた。

学習を終え、『米はかり踊り』について模造紙にまとめたり、地域のイベントで地域の伝統文化でもある『米はかり踊り』を披露したりした。披露する5年生の姿からは、米作りの大変さと、苦役に耐えてきた人々の苦勞が表現されていた。

3 今後の活動計画

以下のことを重点内容として活動に取り組む。

1年生：はなややさいとなかよし

2年生：花や野菜の大きくなるひみつはっけん

3年生：玉川探検隊（春・夏・秋・冬）

※ 校区で栽培されている農作物を調べ、地域の方の素晴らしさに気付かせる。

4年生：福祉活動体験

5年生：お年寄りに古代米を配ろう

※ 米作りでできた古代米に絵手紙を添えてお年寄りに配付することで、福祉への興味・関心を高め、主体的に活動できるようにする。

6年生：玉川100選・櫟野石の秘密を探ろう